

# エコールみよた Clip Board

エコール  
みよた  
32-2770

参加者募集

生きがい学級

## 初夏の安曇野巡り

公民館の生きがい学級では、NHK朝の連続ドラマの舞台となった安曇野へ視察研修を開催します。皆様のご応募をお待ちしています。

### 【日 時】

7月15日(金)  
集合出発午前8時30分

### 【行 程】

エコールみよた(8:30出発)⇒小諸IC⇒更埴JC⇒豊科IC(10:00)⇒安曇野ちひろ美術館(10:30~12:00)⇒大王わさび農場(昼食12:30~14:00)⇒ファーマーズブランド安曇野(直売所14:30~15:00)⇒エコールみよた(16:30頃到着)

【募集定員】20名

【対 象】60歳以上

【参 加 費】2,000円(昼食代・入館料含む)

### 【申込方法】

7月5日(火)午前9時から電話受付を行います。(定員になり次第、締め切ります)

### 【問い合わせ先】

御代田町公民館 (32)2770

浅間縄文  
ミュージアム  
32-8922

長野県元気づくり支援金事業

## 大人のための 縄文料理ワークショップ

金属や電力のない縄文時代、刃物は石、薪を燃やした火で調理をしました。食生活の原点に返って、縄文式調理を行います。

- 1回 7月17日(日)  
ストーンナイフ作り 講師:関口昌和さん
- 2回 7月23日(土)  
使える縄文土器作り 講師:田中洋二郎さん
- 3回 7月24日(日)  
縄文式木の葉石蒸し料理 講師:北沢正和さん
- 時 間:各回 9:00~12:00  
定 員:20名(大人対象)  
費 用:各回 1,500円(材料費等)  
申し込み・問い合わせ先:浅間縄文ミュージアム



石器づくりの動作

## 図書館フェスティバル実行委員会 スタッフ募集

今年の図書館フェスティバルは、9月25日(日)に開催します。企画・運営にご協力いただける方、出演を希望される方、前日・当日にお手伝いいただける方を募集します。楽しいお祭りになるようにアイデアもお寄せください。第1回実行委員会は6月29日(水)に行います。

### 申し込み・問い合わせ

フレンドリー図書館 (32)0800

フレンドリー  
図書館  
32-0800

### 7月のおはなし会の予定

ちいさいおともだちのおはなし会(幼児向け)

7月7日(木)・21日(木) 午前10時30分~11時

おはなし会

7月9日(土)・23日(土) 午前10時30分~11時

昔がたりのおはなし会

7月16日(土) 午後2時~

～青少年は地域社会からはぐくむ～

# 「伸びよう 伸ばそう 青少年」

未来を担う青少年が、社会における自らの役割と責任を自覚し、豊かな社会性と優れた創造性を培い、地域において心豊かにたくましく成長していくことは、県民のすべての願いです。

しかし、社会が大きく移り変わり、青少年を取り巻く社会環境にも悪い影響がおよぶ中で、青少年による凶悪事件の多発や犯罪の低年齢化、いじめや暴力、インターネット上での出会い系サイト等有害な情報を介した事件、子どもの安全を脅かす事件の多発、ニート、ひきこもり、不登校など、青少年の問題は深刻な状況となっています。

こうした背景には、家庭や学校、地域社会広範な領域にわたる様々な要因が相互に絡み合っていると考えられますが、青少年の問題は、大人社会の問題を反映しているものであることをすべての県民が自覚し、県民一人ひとりが自分自身の問題としてとらえ、その解決のため、自発的に行動していくことが強く求められています。

そこで「青少年は地域社会からはぐくむ」という観点に立って、青少年のためのよりよい社会環境づくりを県民総ぐるみの運動として展開、推進するものです。

未来ある青少年のためにも、皆さまのご理解とご協力をお願いいたします。



【問い合わせ先】 御代田町公民館 (32) 2770

BOOK  
コーナー

## ほんとに、いい出会い。

はじめまして

絵本の世界



『おこだでませんように』  
くすのきしげのり／作  
石井聖岳／絵  
小学館

もうすぐ七夕です。全国的に、短冊に願い事を書いて笹竹に飾る風習がありますが、これは、古代の宮中で行われていた乞巧奠(きこうでん)という祭りが江戸時代に庶民の間で展開して始まったものだそうです。今年はどうな願い事を短冊に書きましよう？

『おこだでませんように』  
僕はいつも怒られる。妹と遊んでやつても、泣かした日には必ず怒られる。学校でもサッカークラムの仲間に入れてもらえなくてケンカしたり、休み時間に大声で歌っていたりして怒られる。ほんとには「ええこやねえ」って言われたい。

七月七日、僕は一番の願い事を考えて、小学校に入学してから教えてもらったひらがなでたんざくを書いた。ひらがなひとつずつ、心をこめて「おこだでませんように」と。



『天人女房』  
稲田和子／再話  
太田大八／絵  
童話館出版

『天人女房』  
むかし、天人が羽衣を木にかけ水浴びをしていた。そこへ牛飼いの男が通りかかって羽衣を隠してしまい、天に帰れなくなった天人は男と夫婦になった。それから七年を過ぎたころには、子どもが二人生まれて、幸せに暮らしていた。

ある日、天人は隠してあった羽衣を取り出し、子どもをつれて天へ帰ってしまった。

そこで男が一番大事にしている牛を埋めると、金竹が生えてきたので、それを登って天の国に上がった。

天人と再会した男が、父神にむこにしてくれるように頼むと、命令を言い渡される。天人の助言のとおり男は働いたが、冬瓜をたてに切ったために水が吹き出し、向こう岸に流されてしまった。鹿兒島県に伝わる、七夕の由来となった昔話です。